

飛騨高山高校 『あなたがかける明日』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

飛騨高山高校さんは「幻想的で賞」です。入りのホリと影の使い方や各キャラの凝った衣装などで、舞台に入り込んでいるように感じました。

講評委員が口々に言ったのは、幕開きや転換などで見られた緑のホリで、キャストや大道具等がシルエットになっている舞台の美しさです。さらに、吊り物のツタで、深い森の感じが出ていて幻想的な雰囲気に取り込まれました。また、単に森だけでなく、それが主人公の忘れていた心の奥深くであることが徐々に分かっていくので、よりその舞台美術が、工夫されてるなーと思えました。

主人公のミズキは就職で引っ越しをすることになり、古いものを整理しているうちに、古い人形や昔書きかけだった本に出会います。その本を読んでいるうちに、本の中の世界に入り込み、忘れてしまっていた物語の世界、登場人物と再会します。登場人物は物語の結末を書くようにミズキに求めます。

なかなか思い出せない〈ミズキ〉ですが、最後にやっと忘れていたぼっちの自分、引っ込み思案で臆病な自分、そんな自分が生み出した物語世界を思い出します。思い出して抱きしめる認めることで物語は完結します。「あなたが書ける明日」の「かける」は引っ込み思案だった〈ミズキ〉が、誰かのために「駆ける」そして物語が「書ける」、人形は自分の「カケラ」等、いろいろな意味が込められていて深いなーと思いました。

なぜ就職間近の主人公が忘れていた過去を思い出すんだろう？という疑問が出ました。

就職という、自分の状況が大きく変わる、違った世界に飛び出さなければならないとき、そんな不安な気持ちが、幼い頃のぼっちでおびえていた自分を思い起こさせたのではないか。それは心の奥底にあったのだけれど、でもそれは、自分の作った物語や近くで支えてくれた、お兄ちゃんによって一歩前に踏み出すことができた。そんな自分を思い出して抱きしめることで、「今度も大丈夫。」「明日に向かって駆けることができるよ。」と、〈ミズキ〉は思えたのではないのでしょうか。

前へ前へと前進することだけ考えるのではなく、時に立ち止まって、自分の過去、自分の周りの大切な存在に気付くことの大切さを教えてくれる劇でした。

飛騨高山高校の皆さん、お疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽